

メッセージアウトライン ルカ10：25～37「あなたも同じように」

[25-26]「律法の専門家」…聖書の教えに詳しい律法学者のこと。彼はイエスをためそうとして、「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか」と言ったが、イエスは彼の質問を、そのまま彼に返された。

[27-28]律法学者は模範解答を答える。①「心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」→申命記6：5 ②「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」→レビ記19：18

イエスもこれを認められ、「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます」と言われた。

[29]「しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言った。」彼はそのことはもう実行していると考えていたのであろう。「では私の隣人とはだれのことですか。」ここには何か挑戦的、高慢な響きがある。

[30-32]イエスは彼に答えてひとつのたとえ話をされる。これは良きサマリヤ人のたとえとして知られている。エルサレムからエリコへは北へ約20キロメートルの道のり。険しい下り道で、道は曲りくねり、岩地を通るので強盗に襲われやすかった。「エリコ」は当時エルサレム神殿に仕える祭司階級の半数が住んでいた。ある人がエリコに下る途中で強盗に襲われ、強盗どもは彼の持ち物を奪い、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。そこへ祭司がひとり下ってきたが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。

次にレビ人が通りかかったが、彼を見るとやはり反対側を通り過ぎて行った。彼らは神殿で神に仕える人々であり、聖書の教えは良く知っていたはずである。しかし、彼らは倒れている男を助けなかった。なぜだろう。理由はいろいろ考えられる。①自分も襲われるかもしれない。②この男は囚(おとり)かもしれない。③自分は神殿で仕える身であり、今は仕事のために道を急いでいるので時間が取れない。④誰かほかの人が助けてくれるだろう。……しかし、そこに、やっかいにことにかかわり合いたくない。自分さえ安全で無事ならよいという自己中心の思いはなかったか。神に仕え、神のみことばをよく知っているはずの人々が、実際は神のみことば、神のみこころを実行するよりも自己保身へと走ったのである。

[33-35]ところが、あるサマリヤ人が旅の途中、そこを通りかかった。「サマリヤ人」…紀元前721年北イスラエル王国の滅亡後、アッシリヤ王の政策でサマリヤに移住させた外国人の子孫。やがて彼らはイスラエル人との混血の民となり、純粋なユダヤ人からさげすまれていた。

しかし、このサマリヤ人は先の二人とは違い、彼を見てかわいそうに思い、傷に応急処置をし、自分の家畜に乗せて宿屋まで連れて行き、介抱してやったのである。

「デナリ二つ」…一デナリは当時、大人が丸一日働いて得る給料の金額。

「介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。」彼はユダヤ人から嫌われているサマリヤ人なのに、何という親切だろうか。

[36-37]イエスは律法学者に言われた。「この三人の中でだれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」彼は「その人にあわれみをかけてやった人です。」と答えた。するとイエスは彼に、「あなたも行って同じようにしなさい。」と言われた。彼は聖書のことは良く知っており、自分のしていることは正しいと思っていた。聖書の最も大切な二つの戒めを知っており、それを引用することができた。そして、自分はそのこ

とを実行していると思っていた。しかし、彼は自分の隣人をえり好みしていた。自分に都合の良い人には愛を示し、親切にする。しかし、そうでない人には無視し、通り過ぎてしまう。そういう生き方をしていた。そうでなければ、イエスが、「あなたも行って同じようにしなさい」とは言われなかったであろう。彼がその後、どうしたかは書かれていない。しかし、それ以上イエスに質問しなかったことは確かである。

この良きサマリア人のたとえから教えられることは、自分自身のように隣人を愛するということは、自分の時間や労力、金銭を費やすことであり、ことによったら危険をも覚悟しなければならないかもしれないということである。それは頭だけ、知識だけにとどまることではない。

私たちはこの律法学者のようにではなく、この二つの戒めをはじめ、イエスが教えられたみことばを実行し、みことばに従って生きることが大切である。そしてそれは自力でできることではなく、イエス・キリストを信じて罪赦された者として、助け主なる聖霊により頼みつつ、実行していくことが大切である。